



本日の  
プログラム

## 70年に一度の学校大変革期～GIGAXほっかいどう学の挑戦～

NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長 新保元康氏

### 訪日インバウンドの現場から インバウンド戦略研究所 代表取締役 清水泰正氏

昨年10月に日本の水際対策緩和によってインバウンドが再開しました。その最新の統計も出ておりますのでそれらを含めお話をさせていただきたいと思っております。まず自己紹介ですが、2004年に日本政府観光局に入りシンガポールと香港で9年強駐在をしております。2018年に帰国し香港に会社を設立致しました。北海道関連では運輸局の外部有識者をさせていただいたり、京都に住んでおりますので京都のDMO(観光地域づくり法人)のアドバイザーであったり広島のお手伝いをさせていただいております。会社はコンサルティング業務をメインとしております。

この1年で海外に行かれた方は少ないと思っておりますが、私は昨年の4月シンガポールに2年振りに行って参りました。その後9月、10月、11月、12月、先月もシンガポールに行きまして、今月もあと2回香港に行くことになっております。海外ではコロナに関連する制限がなくフランスやシンガポールはワクチン接種さえも要求されず普段通りに戻っております。昨年4月シンガポールに行った際には成田空港は閑散としておりました。一方でシンガポールの空港では人が多く、成田とのギャップに驚きました。シンガポールの繁華街にも人通りが多く日本の開国が遅れていると感じました。11月に香港に行った際は、入国から3日間はレストランに入れず制限がありました。ホテルでは朝食を朝食会場ではなく部屋で取らなくてはならなかったり、香港の旅行会社の会議室に飲茶をケータリングして皆で食べたり、この時点では各種制限がある状況でした。業界の声は、ホテルの回答が遅い・バスが足りない・観光系のインフラが追いついていない等が課題と感じております。

12月のフランスでは、ILTMカンヌという富裕層向けの旅行を扱う商談会で、世界中からバイヤーが1,800人、出展者と合わせて6,000人規模のイベントですが、誰もマスクをしておらず、コロナ前と変わらない状況でした。フランスも『マスク着用を推奨する』としておりますが、誰もしていませんでした。

日本の入国について、去年は時間が掛かりすぎると報道され、4月は入国前にPCR検査を受けてその結果待ちに1時間半位かかっておりましたが、11月・12月は正常化され20分くらいで入国手続きを終えて出て来られるようになりました。2022年国際観光客は9億人を超え2019年比で37%減まで回復しております。特にヨーロッパの回復がめざましく22%減まで回復しております。ただし、日本を含むアジアパシフィックは77%減で、まだアジアは影響が残っているようです。次に三井住友カードが今年1月に発表した消費額から北海道を見ますと、2019年比80.4%、2割減まで戻ってきております。一番回復が遅いのは近畿圏で74.7%です。元々大きな市場で金額も大きかったことから回復率から見ると遅れております。去年の10月～12月に調査した国・地域別の消費額です。一番高いのが中国ですが、滞在日数が長くなれば基本的には消費額が上がるので注意しないといけない点であります。一泊当たりいくら使ってくださるか重要であり、一泊泊まる方でどれだけ使ってくれるかがキーポイントであって、どの国をターゲットにしていくかが重要になると考えております。一泊あたりの単価の高い国トップ5は香港・シンガポール・台湾・オーストラリア・アメリカです。香港は一泊当たり35,000円です。北海道の課題を紹介すると、宿泊経営指標から客室単価×稼働率を見ると札幌は客室単価が低いため、各都市の中で札幌が最低となっております。現場の疲弊等から北海道のイメージ悪化を防ぐためにも稼働率が低くても稼げるよう客室単価を上げていくことが今後の課題と考えております。本日はありがとうございました。

